

## 遠隔手話サービス 聴覚障害者の社会進出に貢献

### イノベーター

聴覚障害者がいつでもどこでも不自由なく会話できる遠隔手話サービス「モバイルサイン」で2012年度のイノベーションズアイアワード（現在は革新ビジネスアワード）大賞を受賞したシュアール。その後もITを駆使して聴覚障害者向けサービスを開発していった。大木洵人社長率いる慶応大発学生ベンチャーが生み出したビジネスモデルは、聴覚障害者の生活向上や社会進出に大きく貢献している。

— 受賞で変わったことは  
「売り上げは3年前の4.5倍に拡大し、オフィスを神奈川県藤沢市から東京・目黒に移転することができた。われわれにとって最も重要な経営資源である人材も、以前は採用するのに『紹介して』と頼んでいたが、今では『働きたい』と来るので面接で選べるようになった。この間、パートから正社員になっ

### シュアール 大木 洵人社長

たり、聴覚障害者を採用したりして増強、人員は1.5倍に膨らんだ。受賞をきっかけに信頼が高まり、業績も向上した」

— モバイルサインを採用する企業が増えている  
「6月3日に、おかやま信用金庫と提携した。信金では初、西日本の金融機関としても初めてだった。これにより同信金は『聴覚障害者が安心して来店できる店舗環境を実現するとともに、円滑な意思疎通を図ることができるようになった』という」

— タブレット端末やパソコンなどを使えるIT環境があればモバイルサインを使う

「最近社内コミュニケーション手段として使われ始めた。働く聴覚障害者の社内会議や電話の通訳を行う。細やかなコミュニケーションが可能となり、聴覚障害者のキャリアアップにもつながる。またコールセンタ

おおき・じゅんと  
慶応大環境情報学部卒、東京大大学院情報学環教育部長。2009年シュアールを創業し社長。手話通訳士取得。29歳。群馬県出身。



遠隔手話サービスを導入したおかやま信用金庫の桑田真治理事長（左）と大木社長

— 型通訳にも期待している。電話での申し込みや問い合わせができない聴覚障害者もったお客さまに、企業の代わりに手話対応する。花王グループが昨年10月に手話専用の相談窓口を初めて開設した」

— 今後の顧客開拓は  
「価格戦略を改めた。これまで使い放題のプランだけだったが、従量課金制の月3500円プランを導入し使いやすくした。価格面で躊躇していたコンビニオーナーや商店主などに、聴覚障

害者が来店したときに対応できるうえ、ホームページに『手話通訳サービスあり』と書けるメリットがあるという導入を促している。低価格プランに興味を持って問い合わせで結局、3万1000円の使い放題を選ぶケースもある」

— ユーザー参加型オンライン手話辞典「SLinto（スリント）」は

「手話のキーボードを使い、みんなで作るクラウド型手話辞典で、日本で最も大きなデー

タベースとなった。登録されていない手話単語を自ら辞典に追加することができ、スリント上で全世界と共有できる」

— 課題は  
「聴覚障害者への理解がまだまだ足りない。『筆談で十分でしょう』といわれるが、緊急時には間に合わない。手話でお客さまの要求に応えられるようになれば聴覚障害者に支持され、収益につながる。手話を通じて顧客満足度を高められることを伝えていかなければいけない。手話通訳の可能性をもっと知ってほしい」

#### ■会社概要

- ▷ 本社—東京都品川区上大崎4-5-37 山京目黒ビル309 ☎03・6417・9003
- ▷ 設立—2009年11月18日
- ▷ 資本金—1000万円
- ▷ 従業員—11人
- ▷ 事業内容—遠隔手話通訳「モバイルサイン」などの聴覚障害者向けサービスの提供